

令和3年6月 大槌町議会定例会

# 行政報告

令和3年6月4日

大 槌 町



本日、ここに令和3年6月大槌町議会定例会の開会にあたり、3月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

## 1 はじめに

去る4月13日に発生した小鯨山付近での林野火災については、防災ヘリによる空中消火や地上からの消火活動を実施し、4月19日に大槌消防署より鎮火宣言がなされ、被害は最小限に食い止めることができました。

平日にもかかわらず、消火活動に対応いただきました消防団の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、東日本大震災津波から10年が経過し、今年度は跡地活用事業の一環である大槌町営運動施設と郷土財活用エリアが完成し、供用が開始される等、復旧・復興は着実に進み、復興のハード事業は総仕上げの最終段階に入っております。

去る5月19日には、平沢勝栄復興大臣へ、大槌町の東日本大震災津波からの復興・創生に関する要望をオンラインによるテレビ会議で実施いたしました。

町からの要望事項は、復興事業で取得した移転元地の未利用地を活用できる制度の創設と財源の確保をはじめ、心のケア等の被災者支援制度の財源確保、被災した子ども、子育て世帯に対する精神的、経済的な継続支援について、強力な後押しを要望いたしました。今後においても、国、県等に町の現状と課題を伝え、被災者に寄り添った復興・創生の実現を目指し、要望してまいります。

以下、町政運営の概要についてご報告申し上げます。

## 2 令和2年国勢調査の速報値について

昨年実施した国勢調査の速報値について申し上げます。

去る5月11日、令和2年国勢調査の速報値について、岩手県から公表されました。

当町の人口減少率は、県内33市町村のうち10番目に低く、5年前に実施した平成27年対比で6.3パーセントの減、746人の人口が減少し、11,013人の人口となったところです。

平成27年国勢調査から町の状況を振り返ると、自然減に加え復興事業の進捗に伴い、復興工事関連事業者の町外転居などの社会減により人口の減少が進んだものと捉えております。

今後においても、社会情勢をはじめ、新型コロナウイルス感染症による影響などを見据えつつ、引き続き、人口減少に歯止めをかけるべく、第9次大槌町総合計画に掲げる産業振興施策をはじめ福祉施策、教育文化施策を着実に推し進めて移住・定住につなげてまいりたいと考えております。

## 3 新型コロナウイルス対策について

次に、新型コロナウイルス対策について申し上げます。

去る4月14日、町内の内科の医師及び県立大槌病院のスタッフと町健康福祉課とで構成する「大槌町コロナワクチン接種実行委員会」を立ち上げ、医療と行政とによるワクチンの接種方法やスケジュールについて、話し合いを行いました。

4月21日、22日の両日に老人福祉施設及び障がい者福祉施設に入所している65歳以上の方244人に対して、施設に訪問し接種を行い、同月22日、23日に75歳以上の一部住民を対象としたモデル的集団接種を県立大槌病院で実施しました。

集団接種の本格的実施については、75歳以上の方から5月17日より順次開始しております。65歳以上74歳未満の方の接種時期は6月下旬から7月下旬までを見込んでおります。

なお、65歳以上の方のワクチン接種を希望されている方の割合は、88%を超える状況であります。

今後におきましても、関係機関の方々と協力し、連携を密にし、新型コロナウイルスワクチン接種の安全かつ確実な接種に向けて取り組んでまいります。

#### 4 各分野の取り組み方針

##### 【産業・観光】

(観光施策の取り組み)

観光施策の取り組みについて申し上げます。

全国に東北を特化して観光客を誘客するため、東北6県とJR6社が一体となって行う大型の観光キャンペーンである「東北ディスティネーションキャンペーン」が4月1日から9月30日まで開催されております。

当町では、大槌町郷土芸能保存団体連合会が大槌町郷土芸能定期公演支援補助金を活用し、大槌町観光交流協会や宿泊施設とも連携を図り、このキャンペーン期間中に「三陸大槌町郷土芸能かがり火の舞」として毎月第2・第4土曜日に観光客向けの定期公演を小槌神社境内で開催しております。

当町の魅力と誇りである郷土芸能を通じて、見て・触れて・体験できる機会を創出し、観光誘客による交流を促進してまいります。

(地域おこし協力隊の導入について)

次に、地域おこし協力隊の導入について申し上げます。

地域おこし協力隊については、去る4月16日、8名に対して委嘱状を交付、すでに観光、産業振興及び防災・震災伝承といった活動テーマに取り組んでいただいております。

隊員一人ひとりに職員を配置し、サポートする体制を整え、新たな目線で大槌の新しい観光資源の発掘や魅力の発信等の地域の課題解決に取り組みつつ、隊員の定住を図ってまいります。

(岩手大槌サーモンの取り組みについて)

次に、岩手大槌サーモンの取り組みについて申し上げます。

岩手大槌サーモンについては、2期目の水揚げが開始されたところであり、計画数量の200tを上回る見込みであると報告を受けております。

岩手大槌サーモンの生産拡大及び安定生産は、今後、当町の水産業の重要な基軸になると考えていることから、生産から販売まで関わる事業者及び関係機関による「(仮称)岩手大槌サーモン推進協議会」を立ち上げ、町内一丸となった体制を構築し、取組支援を進めてまいります。

また、来る6月13日(日)、吉里吉里フィッシャリーナを会場に第1回岩手大槌サーモン祭りを開催する予定であり、地域における知名度向上及び消費拡大においても、側面支援を行ってまいります。

(アニメ制作について)

次に、アニメ制作について申し上げます。

当町では、アニメを活用した「デジタルトランスフォーメーション」、いわゆるデジタルによるビジネスモデルの変革を推進しており、その事業の一環である三陸鉄道大槌駅キャラクター「大槌カイ」の短編アニメについて、本年秋頃の公開を目指し制作しております。

また、大槌町ほかを舞台とし、家族の絆を描くアニメ映画「岬のマヨイガ」が来る8月27日に公開予定であります。

このアニメを活用した新たな分野の取組みでは、地元商業者の新しい顧客獲

得、PR 方法の刷新、人材の育成などによる経営力底上げと売上額の増加を目指すため、大槌町観光交流協会内に各事業者等で構成される「コンテンツビジネス戦略事業部会」を立ち上げ、去る5月13日に総会が開催されたところであります。

アニメを活用した、町の活性化に向け、新たな取組にもチャレンジし、町内の関係団体や事業者の皆様と連携して取組んでまいります。

## 【健康・福祉】

(福祉タクシー助成について)

次に、福祉タクシー助成について申し上げます。

障がいを持った方の移動支援として、タクシー料金の一部を助成する大槌町福祉タクシー助成事業は、6月1日よりスタートいたしました。

対象となられる方は、身体障害者手帳2級以上や療育手帳でA判定である方、精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている比較的重度の障がいを持っている方となります。

助成内容は、タクシー利用時の初乗り運賃相当額現行540円を一月あたり2回の利用まで助成するものであります。

今後におきましても、ハンディを持った方の生活支援、社会参加の促進など、暮らしやすい街づくりに向けて取り組んでまいります。



## 【教育・文化】

### (教育相談体制の充実)

次に、教育相談体制の充実について申し上げます。

岩手県で毎年実施している「心とからだの健康観察」によると、大槌町においては、ストレス反応の高い、いわゆる「要サポート」の児童生徒の割合が県内平均の 11.5%と比較して、19%と依然として高いことから、今年度も、各学園にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、引き続き教育相談に係る体制の充実に取り組んでおります。

また、教育相談員についても継続配置し、「なやむな相談電話」の対応を行うとともに、必要に応じて「適応指導教室」の開設・対応を行ってまいります。

### (大槌町 GIGA スクール推進の状況)

次に、大槌町 GIGA スクール推進の状況について申し上げます。

「大槌町 GIGA スクール事業」については、昨年度中にタブレット端末を 730 台購入し、各学園の児童生徒全員に 1 台の配置が完了しました。

各学園では授業において積極的に活用を始めたところであります。

今後、各学園での実践を交流する機会を設けながら、タブレット端末の効果的な活用を推進し、児童生徒の「情報活用能力」の向上を図ってまいります。

### (大槌高校魅力化の取り組み)

次に、大槌高校魅力化の取り組みについて申し上げます。

大槌高校魅力化については、4月に県外から地域みらい留学生1名を迎え入れることができました。

大槌町では、生活支援員1名を配置し、留学生の生活のサポートを実施しております。

また、地域と協働した大槌高校の新しい設定科目「地域みらい学」の魅力を、明日6月5日より始まる「オンラインみらい留学フェスタ」で発信し、来春の留学生目標4名に向けて全国募集活動を展開してまいります。

(放課後の学習支援の取り組み)

次に、放課後の学習支援の取り組みについて申し上げます。

放課後の学習支援については、大槌高校の教室をお借りし、中高生の学びの場「コラボ・スクール」を開所しております。

4月は中学生のべ88名、高校生126名が利用しました。

ICTを活用した数学や英語の学習の他に、興味関心を深めるマイ・プロジェクトなど、スタッフの伴走のもと取り組んでいるところであります。

地域スタッフの力を借りながら、これからも子どもたちの学ぶ意欲を大切に実施してまいります。

(生涯学習の推進について)

次に、生涯学習の推進について申し上げます。

東日本大震災津波により、寺野地区にありました「ふれあい運動公園」の廃止に伴い、かねてより整備を進めて参りました「大槌町営運動施設」が本年3月末に完成し、去る5月2日に「全体落成式」を大槌町文化交流センターおしやっちで執り行ったところであります。

サッカー場につきましては、去る5月4日にオープニングセレモニーを行い、その後に開催された「大槌町営サッカー場オープン記念ハートフル少年サッカー大会」では近隣沿岸市町から6チーム、総勢約100名の選手の皆さんが参加され、好天にも恵まれ、大いに盛り上がりました。

さらに去る5月22日には、野球場のオープニングセレモニーを行い、その後に開催された「第50回岩手県少年軟式野球大会兼第38回全日本少年軟式野球大会岩手県予選」において、大槌学園・吉里吉里チームが新球場の記念すべき開幕試合に登場し、会場を盛り上げてもらいました。

町民待望のグラウンド本設ということで、これからの子どもたちの活躍の場や地域住民のコミュニティの促進を図る場とともに健康増進の他、スポーツを通じた交流人口の拡大につなげられるよう努めてまいります。

また、これらの運動施設の維持管理につきましては、指定管理制度への移行を視野に入れて取り組んでまいります。

貴重な動植物や湧水の保全活用を目的に、昨年度、整備した「大槌町郷土財活用湧水エリア」のオープニングセレモニーは、明日6月5日に執り行うこと

としております。

さらに、来る6月17日には「東京2020(にいまるにいまる)オリンピック聖火リレー」が開催され、大槌町の区間である赤浜造船所前をスタートし、ゴールの大槌駅を目指し、約3キロのルートで15人のランナーによって聖火が運ばれます。

町民の皆様には、感染対策に配慮をいただき、声を出しての応援ではなく、拍手での応援をするなどお願いをしております。

(震災伝承について)

次に、震災伝承について申し上げます。

はじめに、東日本大震災津波の犠牲職員状況調査につきましては、当時の職員の聞き取り調査をまとめた、報告書をご遺族の方々に送付し、内容の確認をいただいたことから、現在、印刷製本作業を進め、7月中旬に納品予定になっております。

納品後は、犠牲職員のご遺族をはじめ、県内の自治体や図書館、震災伝承施設などに配布するほか、希望される方には有償にて提供する部数も用意した上で対応することとしております。

(鎮魂の森整備事業)

次に、「(仮称)鎮魂の森整備事業」について申し上げます。

これまで、追悼の場等検討業務を進め、ご遺族のアンケートの実施やワークショップの開催などを重ねながら、本年3月に基本的仕様を固め、課題を抽出したところであります。

これらの業務を踏まえ、4月以降、課題の整理と整備に係る工程表の精査をまいりました。

今後は、犠牲となられた方々の慰霊の場の一日も早い完成を目指し、未買収地の用地取得の手続きのほか、用地測量、基本設計といった段階を踏み、令和4年度から整備に着手し、令和5年度の竣工に向けた具体的な業務を鋭意進める計画であります。

#### (震災伝承プラットフォームの構築)

次に、震災伝承プラットフォームについて申し上げます。

現在、震災伝承基本コンセプト「忘れない」「伝える」「備える」の具体的な事業展開を進めるため、震災伝承に志のある町民や団体、有識者、教育関係者といった方々の参画を想定した、組織の構築を進めております。

今後は、プラットフォームを中心とした、震災の語り部育成をはじめ、震災教育・研修コンテンツの開発、旧役場庁舎跡地などの整備活用について検討を重ね、事業スケジュールを含めた具体的な取り組みを示してまいります。

#### 【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

震災から 10 年が経過し、徐々に落ち着きを取り戻しつつある中、ここ数か月、三陸沿岸地域を震源とする地震が頻発しており、改めて地震の脅威と防災に対する備えについて認識を深める必要があります。

災害情報をいち早く伝達する手段の一つである防災ラジオは、来年 12 月以降、通信規制により防災行政無線放送の受信ができなくなることから、デジタル対応の防災ラジオのあり方を検討するとともに、補完対策を検討してまいりました。

補完対策の一つとしましては、本年 3 月にヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結し、ヤフー関連アプリ等を活用した防災情報発信を新たに導入したほか、通信アプリ「LINE」の町公式アカウントを新たに取得し、運用開始に向け準備を進めており、更なる情報発信の充実に努めてまいります。

これら防災情報を「目」で確認できる手段のほか、音声情報を伝達するツールの検討など、新たな補完対策について情報収集を行い、有事の際の安定的な情報伝達が可能となるよう進めてまいります。

今後も、災害への事前対策を講じるとともに、情勢を鑑みた地域防災計画の見直しと、指針となる国土強靱化計画との調和を図り、引き続き防災意識の高揚と地域防災力の向上を図るための取組みを進めてまいります。

(地域公共交通計画の策定について)

次に、令和3年度大槌町地域公共交通計画の策定について報告いたします。

本計画は、平成29年5月に策定した大槌町地域公共交通網形成計画が本年度をもって計画期間を終了することから、現行計画の見直しを行うとともに、本町の持続可能な公共交通体系を構築することを目的に、今後5年間の本町の公共交通に関する指針を策定するものです。

今後は、町内の公共交通の現状と課題を把握するため、交通事業者のヒアリング、利用者町民アンケート調査及び住民ヒアリング調査等を実施し、改善策について交通事業者と検討を行ってまいります。

(元気なふるさと応援センターの設置)

次に、元気なふるさと応援センターについて申し上げます。

協働地域づくり施策の一事業として、4月1日に大槌町社会福祉協議会への事業委託により、大槌町元気なふるさと応援センターを開設しました。

本事業は、国の集落支援員制度を活用した事業で、センターには町内各地区に直接出向き、現状・課題を把握し、地域づくりに携わる団体の運営への助言や、多様な活動の立ち上げ促進を図るため、地域づくりを支援するふるさと支援員4名を配置しました。

また、ふるさと支援員のサポートや、町の協働地域づくりへの助言をいただ

く役割を担う専門家をふるさと応援アドバイザーとして1名委嘱しました。

ふるさと支援員、ふるさと応援アドバイザー、職員の連携体制により、地域住民との話し合いやコミュニティ協議会を通じて、「協働地域づくり推進指針」に掲げた人と人が集まり、出会いとつながりが広がる地域づくりを進めてまいります。

(大槌町文化交流センター「おしゃっち」の運営について)

次に、大槌町文化交流センター「おしゃっち」の運営について申し上げます。

大槌町文化交流センター「おしゃっち」は、昨年4月から「一般社団法人おらが大槌夢広場」が指定管理者として、管理運営を行ってまいりました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントの中止や施設の利用制限等を実施したことから利用者数は前年度から減少となりましたが、開館2周年企画イベントや季節に応じた企画など、コロナ禍においても創意工夫を感じられる催しが実施され、平成30年6月のオープンから本年3月までに延べ7万4千人の利用者数を数えました。

今後も適切な感染症対策を講じながら、町内外の皆様の交流拠点として長く愛される施設運営を心がけてまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件や条例の改正、補正予算案等をご提案申し上げます。



何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。